

## 築城基地(空自) 有事展開拠点基地

- ◇滑走路東側の公有水面を約 21ヘクタールを埋め立てて約 300メートル延長し、普天間飛行場と同規模の約 2700メートルにする。
- ◇基地内に米軍用宿舎(200人収容可能)、駐機場・燃料庫・弾薬庫などが建設中。緊急時には米兵約 200人、戦闘機 12機、輸送機 1機の受け入れを想定。2016年、米軍岩国基地の第一代替飛行場として指定。
- ◇2018年10月24日の日米合同委員会で、築城基地と宮崎県の新田原基地などに、緊急時に米軍機を受け入れる施設の整備を進めることに合意。F-2A/Bを運用する第8航空団が主力。



## 鹿屋基地(空自) 米軍の無人偵察機部隊の配備

- ◇2022.7.30 米空軍無人偵察機MQ9の一時展開に提供すると閣議決定。管制塔や格納庫、整備場など7棟と、全ての滑走路や誘導路、駐機場の約 269万 9000平方メートルを米軍に提供。南西諸島の監視強化の一翼を担い、「日米同盟の抑止力対処力の強化と、警戒・監視能力向上」を図る。
- ◇2019年から米軍岩国基地(山口県)に駐留する KC130 空中給油機の訓練の一部移転を受け入。
- ◇米軍の補給源。日米物品役務相互提供協定(ACSA)に基づき、2020、21年度に燃料などを提供した件数は2年連続で最多ペース。



## 新田原基地(空自) ステルス戦闘機F35B配備

◇政府が想定するF35Bの運用



- ◇2024年度に6機、25年度に2機を配備し、将来的に約 20機の1個飛行隊を編成する。
- ◇F35Bはレーダーに感知されにくいステルス性能を備え、短距離離陸、垂直着陸ができるのが特徴。
- ◇2018年に日米政府により、有事など緊急時に米軍の戦闘機や輸送機が新田原基地を使用できるよう、同基地内に米軍の駐機場(4万㎡)、燃料貯蔵タンク(既存の地中タンクを貯蔵量9000kℓに拡張)、誘導路、庁舎・倉庫等を整備。日米共同訓練だけでなく「緊急時」に使用。緊急時に米軍の戦闘機 12機、輸送機 1機、米兵約 200人の受け入れが可能に。

## 呉基地(海自) 空母型護衛艦「かが」配備

- ◇最新鋭ステルス戦闘機 F35B の運用を想定した「空母化」を図るため、改修工事を開始。◇相手領域内のミサイル発射基地などを破壊する「反撃能力(先制攻撃)」の一翼を担う。◇横須賀基地を母港とする同型の護衛艦「いずも」と 2 隻の「空母化」に着手。◇改修には、2021年度予算で 203 億円を計上。



2017/4/3 毎日新聞